

徳島大学・明治大学・徳島県連携事業

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的としている。

2. 連携協議会

平成 30 年 6 月 1 日（金）、第 5 回目となる連携協議会が、徳島大学フューチャーセンターにおいて開催された。協議会は各機関から担当者が出席し、平成 29 年度に各機関が連携して実施した事業について報告を行うとともに、平成 30 年度に実施する連携講座等の事業が提案・審議され、承認された。

なお、この協議会は、各機関持ち回りで開催されることとなっており、平成 31 年度は徳島県において開催される予定である。

3. 連携事業

第 6 回目となる連携事業は、徳島県が主担当となり、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として、平成 30 年 11 月 4 日（日）にオープン講座『日本農業の原点「にし阿波の傾斜地農業」～世界農業遺産に認定された持続可能な農業とくらし～』を開催し、約 70 人が受講した。

徳島県西部の 2 市 2 町（美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）の急峻な傾斜地において、棚田、段々畑のような水平面を形成せず、傾斜地のまま農耕し、採草地で採取した敷き草を畑にすき込むことで、風雨などによる土壌流出を最小限に抑え、そば等の雑穀や伝統野菜に山菜、果樹などを組み合わせた少量多品目栽培を長年にわたり続けてきた結果、山々の斜面にはりつくように形成された集落、田畑、採草地、里山の美しい景観とそこで営まれる、自然と調和した人々の暮らしが「日本の原風景」とも称され、国内外から多くの観光客を招いている、「にし阿波の傾斜地農業」が、平成 30 年 3 月に世界農業遺産に認定されたことを踏まえ、改めて、世界農業遺産の意義、認定された地域の魅力等を首都圏在住の方々を紹介するために今回の講座を開催した。

基調講演では、最初に国連大学サステナビリティ高等研究所の永田明客員シニア・リサーチ・フェローから、「世界農業遺産とは」と題して、世界創業遺産制度、意識、活用、国内外の認定地等について、詳しいお話があった。続いて、

事業代表者・連絡先

吉田 和文（地域連携戦略室長、理事（地域・産官学連携担当）、副学長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

本学の内藤直樹大学院社会産業理工学研究部准教授から、「にし阿波の傾斜地農耕システム」と題して、にし阿波の傾斜地農業について、どのような農業なのか、何故認定されたのか、その抱える課題等について詳細なお話があった。

パネルディスカッションでは、明治大学副学長 竹本田持教授のコーディネートの下、講演者に加え、株式会社AWA-RE 榮高志代表取締役、つるぎ町役場 大島理仁商工観光課課長補佐が参加し、「にし阿波の傾斜地農法」についての現在、未来等について議論が行われた。

4. 今後の展開

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当として開催しており、平成 31 年度は本学が主担当として、開催を予定している。

本事業では、このほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業やフィールドワークの開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な事業を実施している。



講演する永田客員シニア・リサーチ・フェロー



講演する内藤准教授



パネルディスカッションの様子